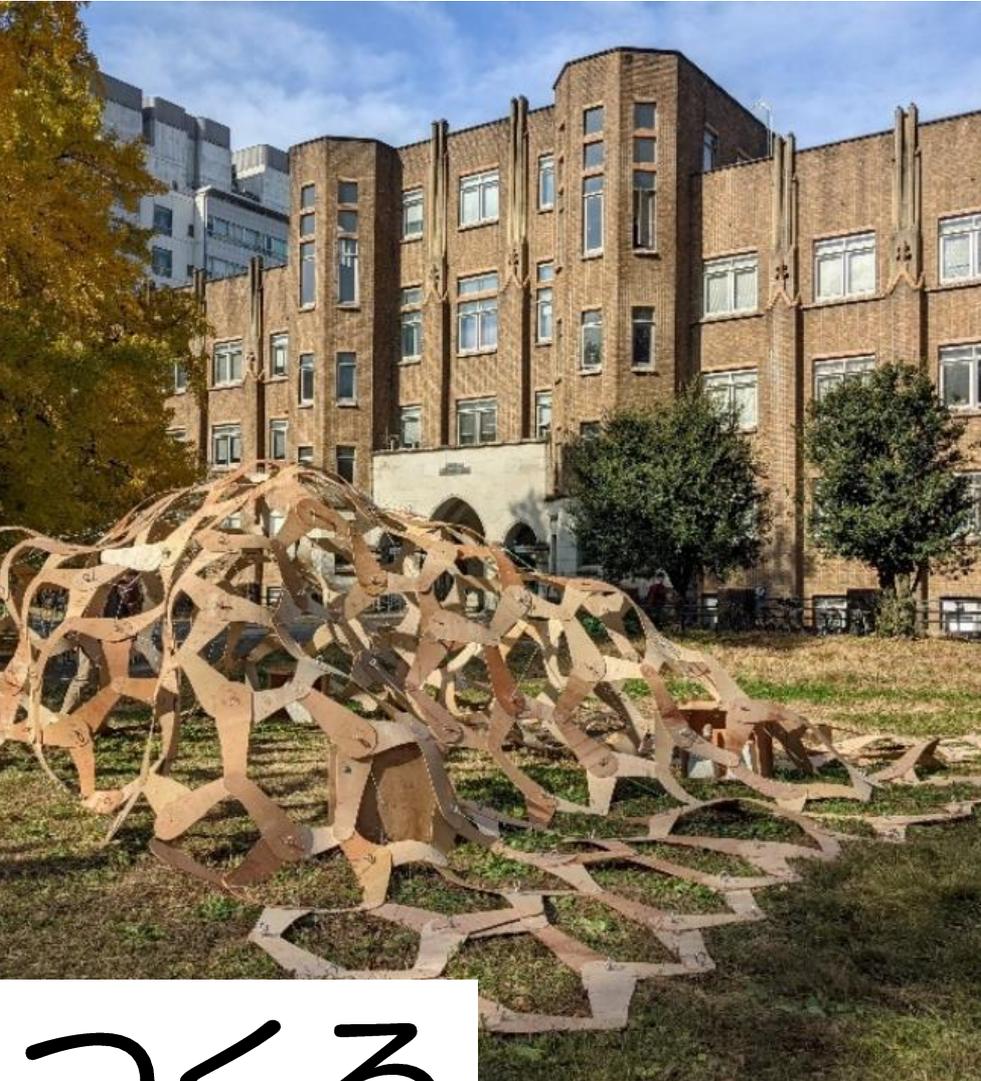
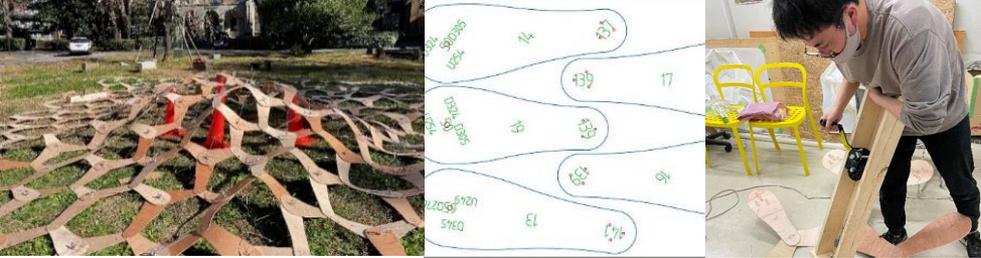


# 研究室説明

2023年6月1日  
東京大学大学院  
権藤智之

# 概要

- 分野：建築構法・建築生産
  - ⇒ **どのように建築をつくるか**
  - ⇒ 職人不足、情報化の中で
- 
- 1. **開発・実装**（実際につくる・使う）
  - 2. **実態調査**（工場・現場を見る・話を聴く）
  - 3. **構法史・生産史**（資料、インタビュー）



つくる

曲げるパビリオン

テイ



海外施工現場

特集 木質化と工業化

戦前から1970年代にかけての日本では、住宅の工業化が推進された。その後1980年代の住宅生産では木造合構化が目立ってきた。さまざまな「木」加工や金物工法が開発された。近年は、社会環境の変化や技術の進歩を受けて、パネル化等の取り組みが再び活発化している。こうした歴史を振り返り、現在起きているさまざまな動きを辿ると、われわれ建築士のこれらの関わり方について考えたい。

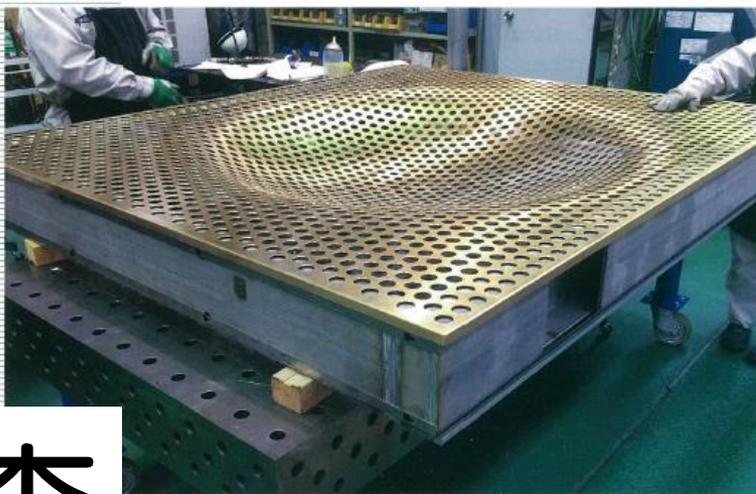
www.kenchikushi 15



特集 曲げる



解体



国内外国人技能者

曲げる (建築士2021年10月)

2021.10 Kenchikushi 11

調査



瀬戸内・佐木島に実在する空き家を舞台にしたデザインビルド実践

A design/build studio in which we'll deconstruct vacant houses on a tiny island in the Seto Naikai, recombining the materials into an architectural gift to the island.

【解体と再構築】  
Decom/Recon



Design studio for master students



活動

# 学生の受賞



国際会議

- 2022年度 中村達太郎賞、工学部長賞（研究最優秀）

上条陽斗「計算博物学序説」

- 2022年度 第92回 日本建築学会関東支部研究発表会 優秀研究報告集

飯塚 喜洋「墨出し工事の技術的变化と今後の担い手」

- 2022年度 第37回建築生産シンポジウム 若手研究者優秀発表賞

吉村惇郁（東京大学）「加速度センサを用いた石膏ボード貼り作業員の作業分析」

- 2022年（第33回） 日本建築学会 優秀修士論文賞

櫻川 廉 「1960、70年代の木造住宅構法開発に関する研究 評定記録に見る工業化から合理化への変化」

- 2021年度 第92回 日本建築学会関東支部研究発表会 優秀研究報告集

淡路 広喜 「デジタルファブリケーションと合板の現場曲げ加工による自由曲面パビリオンの制作」

櫻川 廉 「1960、70年代の木造住宅構法開発に関する研究：評定記録に見る工業化から合理化への変化」

- 2021年度 第92回 日本建築学会関東支部研究発表会 若手優秀研究報告賞

淡路 広喜 「デジタルファブリケーションと合板の現場曲げ加工による自由曲面パビリオンの制作」

- トウキョウ建築コレクション 全国修士論文展

杉田宗賞 淡路広喜『デジタル・ファブリケーションを用いた道具の制作手法および設計・制作プロセスに関する研究』

ファイナリスト 千葉拓さん『日本における複雑形状RC建築の施工の変遷に関する研究』

- 建築情報学会 建築情報学生レビュー2021

優秀発表賞 淡路広喜「デジタル・ファブリケーションを用いた道具の制作手法および設計・制作プロセスに関する研究」

# その他

- 研究の進め方：他研究室・企業と研究会が多い
- 工場・現場の見学、人と会う、つくる、が多い
- スライドはHPにアップロード、長めのスライド・動画も送付可能、6月7日昼に説明会
- ゼミは金曜午前中、6月2日、9日のゼミは参加可能
- メールアドレスは学科HPに記載
- [gondo@arch1.t.u-tokyo.ac.jp](mailto:gondo@arch1.t.u-tokyo.ac.jp)